

竹炭加工品で水質改善



竹炭加工品を水底に置くメンバーたち（宇治市槇島町、巨椋池干拓地の農業排水路）

宇治の巨椋池干拓地排水路

竹炭の加工品で川などの水質改善を目指す取り組みが21日、宇治市の巨椋池干拓地農業排水路で行われた。府山城広域振興局とNPO法人などが連携して実施した。加工品は山城地方で問題になっている放置竹林の竹を使っており、放置竹林の解消と水環境改善を同時に図るのが狙い。

加工品（商品名キレイトマリン）は、竹炭の粉に鉄粉やクエン酸などを混ぜた練炭状の固まりで、水底に置くと植物プランクトンが増加し、ヘドロの浄化につながるという。2年前に広島大が開発し、昨年11月に燃料会社が商品化した。竹資源の有効活用を目指すNPO法人「京都発・竹・流域環境ネット」（事務局・京都市左京区）



山城地方の放置竹林で作った竹炭を活用した加工品

80個設置 放置竹林も解消へ

加工品の存在を知り、山城地方の放置竹林の竹で作った竹炭を提供するなどして商品づくりに協力している。

この日は、振興局の職員や同ネット、巨椋池干拓地の排水路の美化に取り組む「巨椋水辺づくりプロジェクト」のメンバーが集まり、排水路約400㍍の区間に直径18㍍、高さ12㍍の加工品80個を設置した。

3カ月後に水質検査を行い、ヘドロも回収して広島大で分析する。今後、山城地域の別の場所でも実施する。

同ネットの永田寛治理事長は「竹林の荒廃を食い止めることにつながる。今後は放置竹林を伐採する人材の確保が課題になる」と話し、水質改善との一石二鳥を期待している。（渋谷哲也）